

校区まちづくり協議会意見交換会 活動状況・意見の概要

●地域の子育て支援活動状況等

多くの地域で声掛け運動や通学路の安全パトロールなどの見守り活動を実施している。
(実施にあたって学校との協力を図っている地域もあり)

校区まち協、その他地域の団体が連携し、子どもたちも参加して防災訓練を実施している。

民生・児童委員の子育て支援活動「はとぼっぼ」を月1回開催し、七夕やクリスマスのイベントを実施。地域子育て支援センターの保育士からも協力を得ている。また、住民懇談会でも子どもをテーマとした講演会等も実施している。

子育て中の保護者が集まる取り組みとして、子育てサロンやつどいの広場なども実施している。

放課後子ども教室等により、地域の大人と子どもが関わる取り組みを実施している。
(親子ものづくり、寒中登山、各種スポーツ教室、伝承ものづくり教室、コーラス、地域の工場見学、宿題など)

こどもたちのイベントとして、えだまめ収穫祭、缶けりや竹馬などのむかし遊びを実施している。
その他、ふれあいまつり、こども祭りを開催し、こども祭りではこどもが模擬店の手伝いをしてくれた。

学校と地域がタッグを組んで、先生も参加するイベント等を実施している。
(年4回の会議の開催、グランドゴルフ用具の購入による実施等)

こども会では、青少年指導員やPTAなど地域の方々との連携のもと、工夫をしながら取り組みをすすめている。

こども会を再編し、つなひきクラブをつくり活動している。

小学生と高齢クラブの方々と一緒に給食を食べるなど、各種世代間交流を実施している。
(その他、もちつき大会、ビンゴゲーム、高齢クラブによる昔遊びなど)

子どもたちも参加する川の清掃活動を実施した後に、清掃後の川で金魚のつかみどりを実施。
父親が多く参加することを期待したが、父親の参加は少なかった。

小学生を対象にした「まちをきれいに」をテーマとした標語の募集を実施して、採用作品は「のぼり」を作り地域内にて掲示する。(約100名の募集あり、最終的に10点の採用が決定した)

子育て支援の活動を実施するにあたって、地域のつどいの広場と連携をとり、子どもの意見の抽出に努めている。

校門前の朝の挨拶運動の実施や朝のラジオ体操へ子ども達を誘うなどの活動を実施している。朝の挨拶運動では子ども達と接点もてるよう、声のかけ方に工夫を凝らすなどを心がけている。

●今後の子育て支援充実への課題・意見、解決策について

こども会の加入率減少は地域共通の課題であり、根本的な原因を突き止め解決する必要がある。

こども会の活動活性化に向け、こども会とジュニア会の活動をうまく活用し、年上の子どもが年下の子どもの面倒を見るような仕組みをつくる必要がある。

まちづくり、コミュニティ形成には、子どもだけでなく、保護者を巻きこむことが必要。そのためには、こども会の加入数を増やして行く取り組みをしていく必要がある。

こども会活動が低下しており、全体的な取り組みを考えていく必要がある。青少年指導員やPTAなどの若い力が地域の活動を積極的に実施しており、これをこども会加入促進につなげたい。

子ども・子育ての関連活動を行うにあたり、スタッフの人材不足・高齢化が課題。地域活動のスタッフを確保しようにも、地域によって人口の問題もあり対応に限界がある。

地域活動を行うスタッフを確保するため、地域の各種団体への働きかけにより人材確保を目指す。

親子イベント開催の際に保護者への積極的な声かけを行い、地域の活動への参加を促すべきだ。

若い世代が仕事中心になっていることから、今後は若い保護者を巻きこんだり、高校生や大学生などが積極的に手を挙げてほしいと思っている。

子どもたちが外で遊ぶ場所がないと言われており、集会所の前庭を子どもたちに開放していきたい。

校区内に集会所がないため子どもの居場所がなく、学校の近くに一箇所は必要である。

新たにこども会を立ち上げる手法として、福祉委員会でこども会の運営を支援し、保護者の負担を軽減する取り組みが行われる地域もある。

子どもオリンピック等のイベント実施にあたり、こども会に加入していなくても参加できるなどの対応をとっている。